

「追跡“出家詐欺”」問題を受けた再発防止策の実施状況について

NHKは、昨年5月29日に「クローズアップ現代」報道に関する調査報告を受けた再発防止策を決定し、この1年、本部の放送関係部局および全国の放送局で、事実に基づいて正確に放送するために、番組の提案から、取材、編集、試写など全ての制作過程で、チェックを強化し、再発防止に取り組んできました。

再発防止策の導入から1年が経過した今年5月末時点での実施状況は以下のとおりです。

今後も、視聴者の期待に反する放送を繰り返さないという強い決意のもと、再発防止策を着実に実行して、信頼される番組作りにあたっていきます。

そのためにも1年の節目ごとなどに、再発防止策が放送現場でどのように実行され、効果をあげているか実施状況を把握し、必要な見直しを行いながら、実効性をより高めていくことにしています。

●匿名での取材・制作のチェック

今回の問題では、匿名で取材・放送した場面に大きな問題があったことから、全てのニュース・番組を対象に「匿名チェックシート」を使用しています。

シートには、「なぜ匿名にするのか」、「内容の真実性をどう確認したか」などの項目が記載されています。取材・制作の担当者と上司などが、これらの項目に沿って匿名インタビューについて、使用の可否も含めて検討・判断し、上司の部長などが局内の文書保存要領に従ってシートを保管しています。

昨年12月に実施状況を報告して以降、この半年間で、ニュースや報道番組をはじめ、生活情報番組やドキュメンタリー番組、教育・福祉番組、バラエティ番組、海外向けのNHKワールドの番組、ラジオ番組など、本部と地方のあわせて62のニュースと番組で、計177回チェックシートを使用しました。この1年間の合計では、86のニュースと番組で、計447回になります。

シートの導入から1年が経過し、放送現場からは以下のような意見が寄せられています。

「匿名インタビューが必要かどうかや取材先の確認など、基本をより意識するようになったと感じている」

「番組に関わるチーム全体の情報共有を高めることにつながっている」

「同じ過ちを繰り返さないために、シートを作成する手間はかかっても愚直に対応していくしかない」

「時間の経過に伴って運用面で緩みが出ないよう、継続的に周知徹底をしていく必要がある」

今後も引き続き、匿名チェックシートを全てのニュース・番組を対象に使用するとともに、シートの使用が形骸化することがないよう、判断や情報共有をしっかりと行うための重要なツールであるという認識を、研修や勉強会などを通じて現場に徹底させていきます。

●複眼的試写によるチェック

取材制作の直接の担当者とは別の職員や上司、局内で高い専門性を持つ者などが放送前の試写に参加する「複眼的試写」は、ニュースや報道番組、生活情報番組やドキュメンタリー番組、紀行番組など、様々な番組で必要に応じて実施しています。

各地の放送局でも、直接の担当ではないデスクや管理職が試写に立ち会うことで事実関係の誤りや視聴者に誤解を与える編集などを防ぎ、再発防止につなげようという取り組みが行われています。

複眼的試写が行われたニュースと番組は、この半年間で本部と地方であわせて48番組、この1年間の合計では67番組となっており、放送現場からは「複数の目でチェックすることで、担当者の思い込みなどが防止された」、「情報の正確性などを担保することに確実につながっている」、「専門知識を持った記者が参加したことで映像表現やコメントなどをきめ細かくチェックできた」などの意見が寄せられました。

複眼的試写は、今後も番組のテーマや問題の取り上げ方などに応じて、効果的に実施していきます。

●取材・制作の確認シートによるチェック

番組の提案から放送までのリスクを“見える化”する「取材・制作の確認シート」を、まず、「クローズアップ現代」で導入しました。昨年6月1日以降の放送分についてすべて使用し、今年4月に始まった「クローズアップ現代+（プラス）」でも引き続き毎回使用しています。

このシートには、番組の提案段階で想定されたリスクや課題、取材制作過程で留意したことなどを書き出すとともに、「著作権への配慮をしているか」、「演出や編集に問題はないか」などを記入することで、番組提案・制作をめぐるリスクを“見える化”しています。

半年の検証でシートの効果を評価する声が多かったことをふまえて、今年1月からは「NHKスペシャル」や「E TV特集」でも番組内容などに応じて使用しています。

また、各地の放送局が金曜夜間に放送している報道・情報番組にも対象を広げており、「シートに沿ってリスクを洗い出し、確認を行いながら取材・制作を行うことが出来た」、「今までマニュアルなどなく行っていたリスクをチェックする作業が、シートの活用により順を追って実施できるようになった」、「取材・制作上の注意すべき点について、スタッフの間で確実に共有することが出来た」などの意見が寄せられました。

一方、それぞれの番組の特性に応じたリスクをチェックする取り組みも広がっています。たとえば、医療をテーマにした番組では、取り上げる症例が医学的に妥当かといった専門性が高いチェック項目を盛り込んだシートを使用しているほか、情報性の高さが特徴の海外旅行番組では、おすすめのお土産の紹介について「商品名やブランド名を出すか出さないか」、「国内での販売の有無」などの項目をリストアップして、番組独自のチェックを行っています。

今後もこうした番組ごとの特性にあわせて、取材・制作上のリスクをチェックする取り組みも積極的に進めていきます。

●ジャーナリストとしての再教育など

今回の教訓を一過性のものとせず、繰り返し確認していくため、この一年間、研修や勉強会などを継続的に実施し、事実に基づいて正確に放送するという、ジャーナリストとしての原点を放送現場のひとりひとりが繰り返し確認してきました。

放送現場では、「事実を追究」、「事実で語る」という報道の原点に立ち返るための報道倫理研修を昨年9月から今年4月にかけて本部と地方であわせて17回実施し、委縮せずに報道の使命に応え

ることやタテ・ヨコのコミュニケーションの重要性などを再認識しました。

この研修は主に取材系の3職種（記者・映像取材・映像制作）が対象で、新たに各放送局のニューズデスクとなった職員や、入局1年目・2年目・4年目の若手職員、キャリア採用により入局した職員などが参加しました。福岡や高松、京都、岡山など地方の放送局では、取材系の職員に加えてディレクターや技術職員など幅広い職種の職員が参加し、今回のような問題につながりかねない実際の事例を参考に、どうすれば問題を防ぐことができるかを考えてもらうことなどで意識を共有しました。

報道倫理研修では、参加者から「先入観を持たずに組織としてチェックすることが重要だ」、「知らず知らずのうちにコミュニケーション不足に陥っていたのではないか」、「実際の事例を数多く共有し、油断すると誰でも陥りかねないことを改めて認識した」、「時間がたてば問題を忘れてしまう」といった声が出され、再発防止について活発な意見交換が行われました。

また、BPOの放送倫理検証委員会および放送人権委員会の決定を受けた勉強会やそれぞれの委員を招いた研修会も開催しています。委員会から重大な放送倫理違反があったと指摘されたこと等を重く受け止め、取材・制作のあり方、再発防止策にどう取り組み続けるかなどについて議論しました。

今年入局した新人職員全員を対象にした研修でも、今回の問題を取り上げ、公共放送には高い放送倫理が求められていることを確認しました。特に取材系の3職種の新人職員に対しては、これまで1か月だった研修期間を2か月に延長し、放送ガイドラインに掲げられている、事実に基づいて正確に放送するという基本を徹底しました。研修では、丸一日、今回の問題について考える日を設けて、なぜこうした問題が起きたのかを議論するとともに、他の番組では、どのように事実を確認しチェックしたのかなどをケーススタディとして取り上げ、先輩職員と共に取材・制作のあり方を考えました。

研修に参加した多くの新人職員から「放送で伝えることの責任、怖さ、そして真実に迫るために何が必要かについて認識できた」という感想が寄せられたほか、「真実に迫る信念を持ち続けることが大切だ」、「取材の裏付けは大変な作業だが絶対に怠ってはいけない」、「取材を尽くすことの重要性を痛感した」などの声も出されました。

この他にも、新管理職を対象にした研修や、若手ディレクターの研修、アナウンス室の勉強会、外部プロダクションを対象としたセミナーなど、様々な機会でも再発防止のための取り組みを進めました。

再発防止に向けては、問題を風化させず、しっかり引き継いでいくことが、何より重要だと考えています。放送現場で出された様々な意見、あるいは新人職員たちの初心を大事にしていくためにも、こうした研修や勉強会を今後も継続して、今回の教訓を忘れないようにしていきます。

●その他

今回の問題を受けて、「放送の自主・自律の堅持」や「公平・公正」、「人権の尊重」など取材・制作の基本姿勢を明記した「NHK放送ガイドライン2015」の追補版を今年2月に作成しました。

この中では、今回の問題を放送に携わるひとりひとりが重く受け止め、放送ガイドラインに明記されている「事実に基づいて正確に放送すること」、「取材や制作のあらゆる段階で真実に迫ろうとすること」などを再確認することが何より重要だとしています。

この追補版は、新人職員を含めた全ての職員に配布し、取材・制作の基本を絶えず確認するために活用しています。